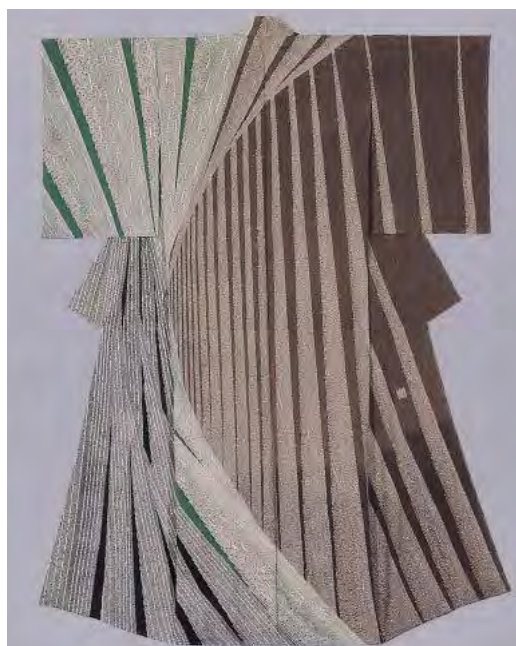


## 森羅万象をまとう

—友禅 人間国宝 木村雨山・二塚長生の仕事—



木村雨山 《友禅訪問着 群》 東京国立近代美術館蔵



二塚長生 《友禅訪問着 瀑響》

特別陳列 加賀藩の美術工芸【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 古九谷・再興九谷名品選【第2展示室】

■ 写真と幻想【第3展示室】

■ 明治の工芸【第5展示室】

- 2月前半の展覧会
- 2月の企画展示室
- ミュージアムウィーク
- 友の会会員募集
- アラカルト ただいま展示中



重要文化財《閑居友》 鎌倉13世紀  
前田育徳会蔵  
—特別陳列 加賀藩の美術工芸より—

## 加賀藩の美術工芸

2月9日(金)～3月21日(水) 会期中無休

## 学芸員の眼

二月二十五日は、菅原道真が大宰府で苦悶のうちに世を去った日です。今回展示される《荏柄天神縁起絵巻》巻中は、まさに道真が恩賜の御衣をしのび、天拝山頂で冤罪を訴えた後に世を去り、やがて亡霊となって延暦寺の座主・法性房尊意を訪ねて復讐の決意を伝え、雷神となって清涼殿を襲撃する場面が大きな見所となっています。こうして学問・芸術の神であるとともに、雪冤・復讐の神でもある天神は、文化によって徳川氏に屈従を強いられた怨嗟を昇華するという前田家による戦略的な文化政策の、この上もない精神的支柱となりました。それゆえに加賀藩三代藩主・前田利常が、先祖を菅原道真と公言したことも、この戦略の一環と考えることができます。

毎年の定番ともいえる特別陳列ですが、今回は、重要文化財《閑居友》かんきよともが久々に公開されます。『閑居友』は鎌倉時代の説話集で、著者は天台宗の僧・慶政けいせい(一一八九～一二六八)と考えられています。慶政は一二一七年に宋に渡り、帰国後京都西山に法華山寺を創建しています。本書は上下二巻からなり、下巻の末尾には、「承久四年(一二二二)の春 弥生の中の頃 西山の峯の方丈の草の庵にて 記し終わりぬる。」と記されています。上巻二十一話は僧侶を中心とした発心談ほっしん、下巻十一話は女性を中心とした往生談が主な内容です。今回展示するのは冷泉為相れいぜいためすけ(一二六三～一三二八)の手によると伝えられる現存最古の写本です。綴葉装てつちようそうの上下二帖のうち、今回は上帖のみを展示します。さらに今回は、

この《閑居友》を収納するために加賀蒔絵の技法を駆使して制作した箱もあわせて展示します。総体黒漆塗で、蓋表中央に銀高蒔絵を主体として巻子の意匠を大きく配し、題箋部分には螺鈿で「閑居友」と記されています。名品の収集と、芸術的に洗練された技術の育成という加賀藩の美術工芸の特質を、見事に具現化した作品ということができます。そして本展では、加賀藩主・前田家による文化政策の精神的支柱となった天神信仰に関連して、重要文化財《荏柄天神縁起絵巻》の巻中を、巻頭から巻尾まで余すところなく公開します。二〇メートルにもおよぶ長巻を、一度にご覧いただく貴重な機会となります。

## 第3展示室

# 写真と幻想

2月9日(金)～3月21日(水) 会期中無休

本展は石川県立美術館が企画する初の写真展であり、今後、継続的に石川の写真史を明らかにする展開を期するものです。今回はその嚆矢として、カメラにより実在を写し、それを素材としてイメージを構成し、超現実的世界を現出した作家の作品をご覧いただくこととしました。

世代的に開きのある三人ですが、それぞれの求めた表現が、その世代を代表するスタイルであったと実感できます。



河野安志 《黒の浸食》1992 写大ギャラリー蔵

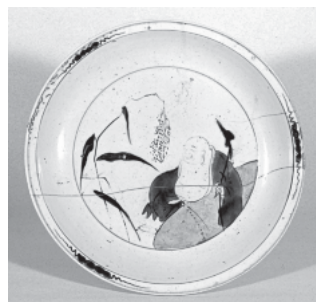
## 第2展示室

# 古九谷・再興九谷 名品選

加賀藩三代藩主・前田利常は、やきものに鮮やかな彩色で加飾する色絵に深い関心を持っていたようです。利常は、オランダのデルフト陶や交趾焼と総称されるやきものの収集とともに、京都や九州の動向にも注目し、加賀における色絵磁器の生産を着々と準備してゆき、やがて一六四〇年代には九谷の地に生産拠点を構えました。これまでの九谷古窯や周辺の発掘成果から、九谷では陶器を含む幅広いやきものが生産されていたことがわかります。その中には、今日の古九谷に通じる色絵陶磁片も発掘されています。しかし、その数が少ないとして古九谷の生産を疑問視する意見もあるようですが、唐津の例が示すように、当初から九谷は磁器のみを生産する拠点ではなかったと考えるべきでしょう。

先の特別陳列「加賀蒔絵の世界」でご紹介したように、加賀藩の文化政策は漆芸に新たな様式を確立するほどの強い影響力を持っていました。その影響力が当時の日本では新しい芸術ジャンルである色絵磁器に向けられたならば、古九谷のような独創的な様式が誕生することは極めて自然な成り行きではないでしょうか。そして、その様式が加賀の地にも継承されている事実にも重要な意味があります。

このように「九谷」のやきものには、文化による独自性の表明という加賀藩が推進した文化政策の根本精神が集約されています。この気概が、時には商業的観点と衝突しながらも、若杉窯、吉田屋窯をはじめとする再興九谷諸窯の原動力となりました。



石川県指定文化財《色絵布袋図平鉢》古九谷

## 森羅万象をまとう

—友禅 人間国宝 木村雨山・二塚長生の仕事—

1月4日(木)～2月12日(月・休) 会期中無休

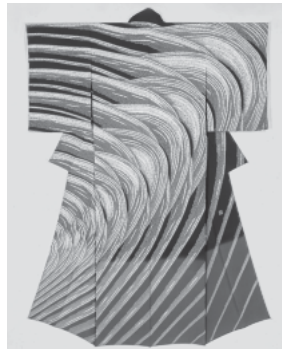
開催中の新春企画展「森羅万象をまとう」—友禅 人間国宝 木村雨山・二塚長生の仕事—では、三つの展示室に二作家の作品を展示しています。両者は重要無形文化財保持者としての認定は同じ「友禅」で、作品は着物を中心としています。作風はもちろんのこと、作品を発表した年代も取り組み方も違います。その背景を踏まえて、初期の木村の作品はほぼ年代順に展示しました。木村の展覧会出品の歴史は、工芸を生業とする職人たちが展覧会に出品を始め、作家として活躍するようになる歴史と重なり、人々の日常着が洋服へと変化する時代が、作品に大きく反映されています。

二塚は展覧会初日に「木村先生が作品を作っていた頃は着物が生きていたが、今は着物が儀式になっ

初期の内国博覧会、万国博覧会に出品され、高い評価を受けています。

今回展示する作品の一つ、九谷庄三の《色絵金彩八仙人花鳥図大花瓶》は高さが五七・五センチもの大きな花器です。東洋のエキゾチズムをやや過剰に意識した、八人の仙人が集う様子と、華麗な花と孔雀の図柄を前後に描いています。日本の家屋には不釣り合いなこの大きさ、さらに二点対であることから、西洋の様式を考慮して作られたことが分かります。赤絵の細書に色絵と豪華な金彩を施す技法は「庄三風」と呼ばれ、高く評価されました。本作をはじめとする、明治時代に作られた陶芸や漆芸、金工の作品を紹介します。名工たちの巧みな技術をご堪能ください。

第二室では木村の晩年の作品と、この大きな存在の前に、おそらく自問自答しながら制作していた頃の二塚の初期作品を合わせて展示しましたが、この頃があつて現在に続く、糸目糊を主体とした展開が生まれたことが分かります。写真は第四十九回日本伝統工芸展出品作《友禅着物 雲の峰》です。この年二塚は本作と《友禅着物 雨あし》の二点を出品しており、生地もモチーフも全く異なる作品を短期間に制作したエネルギーに驚かされます。ぜひ併せてご覧ください。



二塚長生  
《友禅着物「雲の峰」》 個人蔵

## 明治の工芸

2月9日(金)～3月21日(水) 会期中無休

江戸時代まで受け継がれてきた伝統的な美術工芸は、武家社会の崩壊とともに製作する職人たちも減少しました。これらの優れた技術が失われる危機に直面していた頃、明治政府は富国強兵をベースとした、欧米諸国への対応として殖産興業の政策を執り、輸出品としての美術工芸品制作を奨励しました。

明治時代に作られた美術工芸作品がジャンルを問わず、比較的サイズが大きく、隙間を埋め尽くすように豪華な装飾が施されたものが多く見られるのは、欧米諸国を中心とした海外への輸出を目的としていたことによります。室内装飾品として欧米の建築物にふさわしい大きさで、分かりやすい日本のモチーフをあしらった作品が、とりわけ

分かります。赤絵の細書に色絵と豪華な金彩を施す技法は「庄三風」と呼ばれ、高く評価されました。本作をはじめとする、明治時代に作られた陶芸や漆芸、金工の作品を紹介します。名工たちの巧みな技術をご堪能ください。



九谷庄三  
《色絵金彩八仙人花鳥図大花瓶》

## 新春優品選

能面と能装束を中心に紹介する「新春優品選」の会期も残りわずかですが、思いがけず紙面をもらいましたので、今回の展示にまつわる「おまけ話」をご紹介します。

現在第二展示室では、大聖寺藩十四代藩主であった前田利邇が、能(安宅)のシテを勤める写真をあわせて紹介しています。利邇は、加賀藩十三代藩主斉泰の七男。加賀藩最後の藩主十四代慶寧の異母弟にあたります。この写真は、明治末から大正初期の頃に、雑誌『能楽』に掲載されたものです。手に持つ経巻(勸進帳)を読み上げる場面なので、視線は落ちていますが、「なるほど前田子爵様とは、このようなお顔立ちだったのか」とうかがえる、興味深い写真です。そして、着目すべきは、この時着用している装束が、現在展示中の《白地紋尽厚板》(本館所蔵)であ

### 2月前半の展覧会

会期：12月23日(土・祝)～2月5日(日)

るということですが。(橋弁慶)などの弁慶役にふさわしいと、装束を包む畳紙には記されています。

十三代斉泰が、明治以降の能の復興に尽力したのによく知られていますが、慶寧が斉泰の存命中に他界(一八七四年)したこともあり、その斉泰と共にその力となったのが利邇でした。利邇は幼い頃から能が好きであったようで、幕末には斉泰と盛んに共演しています。

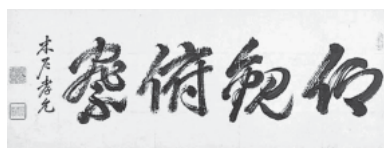
ところで、この利邇が建てたという能舞台が、伊豆修善寺の高級旅館に移築されているという話を、遅ればせながら昨年ひょんなことから知りました。「月桂殿」と称されるその能舞台は、元々東京深川の富岡八幡宮へ寄進されたものだそうです。どちらも一度、観に行ってみたいものです。

会期も残すところわずかとなりました。すでにご覧いただいた方もあるかと思いますが、展示作品のなかに、おめでたいメッセージが隠れていたことにお気づきでしょうか。

今回、展示室の一番後ろのガラス壁面には、談議所栄二《松の図》の四曲一隻屏風が展示されています。そしてそのすぐ前のケースのなかに、南繁正《竹図鉢》と中村研一《紅梅図皿》があります。そう、ケースの前に立ってみれば、松竹梅の作品を一度にご覧いただくことができます。

寒い冬の間も緑を保つ松、いち早く香る梅、節を曲げない竹は歳寒三友とも呼ばれ、君子が友とするべき三つのものとされてきました。工芸作品にあらわれたこれらのモチーフに、ぜひ注目してみてください。

現代日本の書家たちは、書道史上の「古典」を尊重しつつ、漢字、かな、篆刻を主体としながら、前衛書などの様々なジャンルを生み出してきました。展示中の昭和を中心に活躍した書家たちの作品では、書を線の集まりとしてとらえ文字の形や線の存在感など、視覚的なインパクトを追求する傾向をご覧いただけます。また、当館の近現代書作品の中に墨跡の作品はありませんが、昭和を代表する書家でもあり天台宗の高僧である豊道春海の作品は、書人としての枠を超えたスケールの大きな僧侶としての人となりを感じることができるところでしょう。そして、今日は筆と墨によって書くことが社会の中で一般的でなくなっていますが、書家ではないものの教養として書をたしなんだ、近代以降の「文人・画人の書」もお楽しみください。



木戸孝允 《仰観俯察》

## 新春優品選

## 書の魅力

## 第7・8展示室

# 金沢学院大学美術文化学部 第15回 卒業研究制作展

2月23日(金)～27日(火) 会期中無休

◇入場無料

◇連絡先／金沢市末町一〇

金沢学院大学美術文化学部担当受付

電話：〇七六一二二九一八八六一

今年も、美術文化学部の二学科、美術学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸・学芸文化財)、メディアデザイン学科卒業制作並びに美術文化専攻科修了制作の成果を発表いたします。小さな学部ですから出品作品数は多くありませんが、一人ひとりの表現や解釈の多様性に今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることは楽しいことです。どうかご高覧いただき、忌憚のないご批評ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

## 第9展示室

# 金沢辰巳丘高等学校第30回 芸術コース美術専攻卒業作品展

2月16日(金)～18日(日) 会期中無休

本校芸術コース美術専攻は「美術系大学への進学に対応した実技力の育成」を目標に創立以来、美術・基本の定着と高い造形表現力の育成を行ってまいりました。卒業生は金沢美術工芸大学をはじめ全国の美術大学・芸術大学・教育系大学へと進学し、絵画、彫刻、工芸、デザイン、映像、アニメーション、美術教育界など、地元石川のみならず全国、さらには海外において美術文化や美術教育の担い手として活躍しております。この展覧会は、今年度卒業する十九名が日本画、油絵、彫刻、デザインの四つの専科での学習成果を展示するものです。この機会を通して、本校美術専攻生徒と本校美術教育の一層の成長、発展への励みにしたいと考えております。

## 冬のミュージアムウィーク

兼六園周辺文化の森では、二月三日(土)から十二日(月・祝)まで「冬のミュージアムウィーク」として、さまざまなイベントが行われます。当館関係のものを抜粋して紹介します。

◆展示室でスケッチGO!

磁気式お絵かきボードを使って、展示室の作品をスケッチします。描き終わったらスケッチはポストカードにしてお持ち帰りいただけます。

※参加者は団体料金で展示室に入室できます。高校生以下は無料です。

日時：二月四日(日)十三時～十五時(所要時間三十～四十分)

会場：一階企画展示室

◆寒糊炊きと黴

文化財の修復作業に欠かせない「寒糊炊き」は、大寒の時期に行う恒例行事です。文化財や糊・黴に関して、実物や映像を用いて解説します。

日時：二月十一日(日・祝)①十時～十時三十分 ②十四時～十四時三十分

会場：石川県文化財修復工房・美術館広坂別館

その他ヴァイオリンとチェロによるミニコンサートなど冬も盛りだくさんのミュージアムウィークです。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市角間町 金沢大学

人間社会学域学校教育学類 江藤望

電話：〇七六一二六四一五五八二

絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学士課程による平成二十九年度卒業作品を展示します。これらは、主に教職を目指す学生が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。未熟ではございますが是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

## 第7展示室

# 平成29年度 金沢大学 学校教育学類 美術教育専修卒業制作展

2月16日(金)～20日(火) 会期中無休

# 石川県立美術館友の会 会員募集

3月1日(木)から受付開始！郵送でのお申し込みは郵便振替で。  
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

- ① 会費 二、〇〇〇円
- ② 受付期間 三月一日(木)より開始。
- ③ 入会手続 次のA、Bいずれかの方法。

**A** 直接来館してのお申込み  
 ・ 会員証…その場で発行。  
 ・ 場 所…一階情報・図書コーナー及び事務室  
 ・ 申込方法…会費(現金)と入会申込書に所定事項を記入して提出。  
 ・ 受付時間…午前九時三〇分～午後六時(休館日を除く)  
 ※展示替えによる三月の休館日は、二十二日(木)・二十五日(日)です。

**B** 郵便局からのお申込み  
 ・ 会員証…三月末から美術館日より共に郵送。  
 ・ 申込方法…同封の払込取扱表に所定事項を記入し、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料は申込者負担。  
 ・ 注意事項…郵便局で払込んだ方は、同封の申込書を郵送する必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。  
 ◇郵便局(ゆうちょ銀行)備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に左の事項を記入して支払い。  
 ・ 郵便振替口座…〇〇七〇〇一七―四六四九〇  
 ・ 加入者名…石川県立美術館友の会  
 ・ 通信欄記入事項…年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員の方は現在の会員番号

- ④ その他
- ◇ 会員証の有効期限…平成三〇年四月一日  
 ～平成三十一年三月三十一日
- ◇ 会員証の対象…記名者本人のみ(ご家族の方との連名受付はありません)。
- ◇ 一度納入された会費の返金はできません。
- ◇ 会員証紛失による再発行はできません。

## ⑤ 会員の特典

- コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員本人のみ)
- 企画展入場券進呈  
 (春季・秋季・冬季三回の企画展のいずれか二回に無料で入場可)
- 企画展の開会式(開会式がない場合は初日)にご招待
- 入館料の割引(要会員証)
  - ① 同伴者二名まで…コレクション展、企画展観覧料が割引
  - ② 会員本人のみ…石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢二一世紀美術館の各館主催展覧会を割引。
- 館主催諸行事への参加
- 館内カフェ「ルミューゼドゥアッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、平日のみ)
- 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送

## 2月の行事予定

■土曜講座	午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料
3日(土)	琳派の草花図をめぐって 有賀 茜
10日(土)	木村雨山の下図とスケッチ 寺川 和子
24日(土)	中国の茶書を読む―『茶経』― 村上 尚子
■映像ギャラリー	午後1時30分～ 美術館ホール 入場無料
25日(日)	続美術のみかた5 意識の変革―シニールレアリスム―(22分) 極める8 世紀末の夢 ジャポニズムとガレ／消えた古九谷 色絵／青手の出現(50分)
■展示室でスケッチGO!	午後1時～3時 2階コレクション展示室
4日(日)	展示室でお気に入りの作品を、磁気式ボードを使ってスケッチ! ※観覧料を団体料金に割引します。

《刻の堆積》ときのたいせき

縦 224 × 横 168 (cm) 平成10年(2003)

古澤洋子 ふるさわ・ようこ

昭和43年(1968)～



「人気作家」「女流日本画家」といった形容をされることが多い作者ですが、その言葉が持つイメージとは裏腹に、本人は描くことにただ真摯で、ひたむきな画家です。さらに意外な一面は、山岳愛好家だということ。自らの足でその空間に辿り着き、身を置かなければ着想し得ない画想が、作者の持ち味となっています。

近年は地球を「生命が堆積する星」と捉え、それを柱に「時間」「歴史」、そして「生命」といったテーマに取り組んでいます。二〇〇三年発表の本作では、異国情緒の集落、その屋根というミニマムな視点から、

時間や歴史、人の営みを見つめています。

やがて「地球」という現在のマキシマムな視点へと展開しゆく、その序奏ともいえるでしょう。

古澤洋子は、一九六八年、金沢市に生まれました。金沢美術工芸大学の修士課程を修了。日展や日春展を発表の場としながら、誰にも師事はしていません。そのことが一面、独創的な画想を得ることに幸いしたといえます。現在日展会員。昨年改組新第四回日展において、二度目の審査員を務めており、師事なく画塾にも属さない作家の経歴としては、出色といえるでしょう。

次回の展覧会

平成30年2月9日(金)  
～3月21日(水)

	前田育徳会尊経閣文庫分館	第2展示室
	加賀藩の美術工芸	古九谷・再興九谷名品選
第3展示室	第4・6展示室	第5展示室
写真と幻想	優品選 【絵画・彫刻】	明治の工芸

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※( )内は団体料金

毎月第1月曜日はコレクション

展示室無料の日(2月は5日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

2月は無休で開館しています。ただし、6日(火)～8日(木)はコレクション展示室のみ閉室。

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った  
知名度向上

県立美術館発行の  
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ 092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F  
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより

第412号(毎月発行)

2018年2月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel: 076(231)7580

Fax: 076(224)9550

URL <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>